

長野県過疎地域持続的発展計画 令和3年度評価報告書

長野県過疎地域対策協議会

1 長野県過疎地域持続的発展計画の評価について

趣旨

長野県過疎地域持続的発展計画（以下「計画」という。）では、過疎地域における持続的な地域社会及び地域活力の更なる向上と実現に向け、3つの基本目標と12の施策分野ごとに関連目標を設定し、施策を展開することとしています。

計画の実行に当たっては、設定した達成状況をもとに進捗状況の評価を実施し、PDCAサイクルを回していくことにより、計画の実効性を高めます。

達成状況の評価は、長野県過疎地域対策協議会において毎年度実施し、その結果を公表します。

2 計画の概要について

計画の趣旨

過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第9条及び長野県過疎地域持続的発展方針に基づき、県が過疎地域の市町村と協力して実施する又は支援する事業について取りまとめ、策定するものです。

基本目標

指標名	目標
過疎市町村等の人口減少率	R2年からR7年の減少率：△3.0% (特段の政策を講じない場合の減少率：△5.0%)
過疎市町村等の若年者比率 ^{※1}	R7年：現状の水準以上（R3年：12.5%）
過疎市町村等の財政力指数の平均	R7年度：現状の水準以上（R3年度：0.303）

※1 若年者比率：人口に占める15～29歳の比率

※2 各指標の数値は、原則として特定市町村を含む過疎市町村40団体の数値を設定（R3年度時点の過疎市町村等）

※3 今後の県総合5か年計画の策定等を踏まえ、目標の見直しを実施（以下同じ）

基本的な方向

創造的で豊かな生き方が実現できる地域づくり	確かな暮らしが営まれる地域づくり
<ul style="list-style-type: none">モノの豊かさよりも心の豊かさに重きを置き、自らの人生を自らデザインできる創造的な生活のある地域をつくります。地域に今ある価値（原風景・町並み、伝統・文化等）を再認識し、高め、発信することで、都市住民が憧れを抱く地域をつくります。学びと自治の力を発揮し、「クリエイティブ・フロンティア」（これからの時代を牽引する新しい生き方や暮らし方、価値を創造できる最先端の地域）へと価値観の転換を図ります。	<ul style="list-style-type: none">人々が地域で安心して暮らし続けることができる基盤を確保します。田園回帰（信州回帰）の潮流を捉え、移住・二地域居住の推進、つながり人口の創出により、地域活動と地域の産業を支える人材を確保・育成します。DXの推進により、必要な生活・行政サービスを享受できる環境を整備します。地域にある資源を活かし、過疎地域から脱炭素（ゼロカーボン）社会を実現します。

2つの「基本的な方向」を、共通の視点・目指すべき方向として市町村等の関係者と共有しながら、計画に記載の施策を推進。

3 計画の評価について

基本目標及び関連目標について、R3. 4. 1 時点の過疎市町村等（40 市町村）に係る R4. 10. 1 時点の進捗状況により評価。

(1) 基本目標の進捗状況

指標名	最新値 (R4)	目標
過疎市町村等の人口減少率	R2 年から R4 年の減少率：△1. 5%	R2 年から R7 年の減少率：△3. 0% (特段の政策を講じない場合の減少率：△5. 0%)

指標名	最新値	目標
過疎市町村等の若年者比率※	12. 1%	R7 年に R3 年の水準以上 (R3 年：12. 5%)

※ 若年者比率：人口に占める 15～29 歳の比率

進捗状況の分析

<人口減少率について>

- R2. 10. 1 から R4. 10. 1 の間における人口は、過疎市町村等では 1. 5%減少しており、過疎市町村以外も含む全市町村（以下、全市町村という。）での 1. 3%減少と比べ、過疎市町村等の方が人口減少率は大きくなっています。
- 同期間における人口について、自然動態※が全市町村、過疎市町村等ともに減少している一方で、社会動態※は全市町村では増加し、過疎市町村等では減少しています。
- このことから、過疎市町村等の人口減少が全市町村よりも大きい要因は、社会動態※による人口減少と考えられます。

<若年者比率について>

- R4 年における過疎市町村等の若年者比率は 12. 1%であり、R3 年の 12. 5%と比べて、0. 4%減少しています。
- 若年者比率が減少した要因としては、社会動態※が過疎市町村等において減少したことが考えられます。

今後の取組

- 目標の達成に向けては、過疎市町村等における社会動態※の増減率の改善を図ることが重要であることから、引き続き、「移住・定住・地域間交流の促進、人材の育成」分野や「産業の振興」分野など社会動態※の増加に資する取組を推進していきます。

※ 自然動態：出生数－死亡数、社会動態：転入－転出＋その他増減

指標名	最新値 (R4 年度)	目標
過疎市町村等の 財政力指数の平均※ ¹	0.293	R7 年度に R3 年度の水準以上 (R3 年度 : 0.299※ ²)

※1 財政力指数：基準財政収入額を基準財政需要額で除した数値 (R2～R4 平均)

※2 R3 年度の財政力指数は、国の補正予算に基づき普通交付税の再算定が行われ、その結果、基準財政需要額が伸びたため、計画策定時の数値から確定値に更新 (参考：更新前の財政力指数 0.303)

進捗状況の分析

- R4 における過疎市町村等の財政力指数の平均は 0.293 で、全市町村の財政力指数の平均 0.380 を大きく下回っており、過疎市町村等の財政力は脆弱な状況です。
- 過疎市町村等における R4 (R2～R4) の財政力指数の平均は、R3 (R1～R3) と比べて 0.006 低下していますが、その要因については、新たな基準財政需要額の算定項目「地域デジタル社会推進費」が R3 に創設されたことによる算定額の増などにより、R4 にかけて基準財政需要額が増加したこと等が考えられます。

今後の取組

- 目標の達成に向けては、過疎地域が持続的な発展をするため、安定した財政運営ができるよう、引き続き、市町村に寄り添った助言等により支援します。

(2) 関連目標の進捗状況 33 項目

① 移住・定住の促進、地域間交流の促進、人材の育成・確保

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
移住者数 (長野県調査)	1,088 人 (R2 年度)	1,534 人 (R3 年度)	1,300 人	<p><現状分析> コロナ禍により高まっている都市部からの地方回帰の流れを受け、移住者数が増加傾向にあり、R2 年度の実績値と目標 (R7 年度) を上回っています。</p> <p><今後の取組> コロナ禍を契機とした人の意識や社会の変化を追い風ととらえ、市町村と連携した移住セミナー等の開催や、長野県で「暮らす・働く・つながる」情報の発信等により、都市圏から長野県への人や企業の呼び込みを一層強化していきます。</p>
地域おこし協力隊員の定着率 (長野県調査)	86.2% (R2 年度)	74.6% (R3 年度)	87.0%	<p><現状分析> 定着率は R2 年度まで全県、過疎市町村等ともに上昇傾向であり、R3 年度は R2 年度に比べ低下しました。</p> <p><今後の取組> 協力隊員の活動ステージに応じた研修の開催や地域おこし協力隊サポートネットワークにおける情</p>

				報共有、隊員と受入市町村のミス マッチ防止を図る好事例を横展開 し、隊員の定着を支援します。
山村留学に取り組 む団体数 (長野県調査)	14 団体 (R3 年度)	14 団体 (R3 年度)	18 団体	<p><現状分析></p> <p>R3 年度は、R2 年度から新たに山 村留学に取り組む団体が 1 団体増 え 14 団体となりました。</p> <p><今後の取組></p> <p>山村留学に関心がある団体に対 して、山村留学の運営等に係るノ ウハウを共有するなど、サポート する体制を強化し、山村留学に取 り組む意向がある団体を支援しま す。</p>

②産業の振興、観光の開発

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
企業立地件数 (工場立地動向 調査(経済産業 省))	20 件 (R2 年度)	29 件 (R3 年度)	100 件	<p><現状分析></p> <p>R2 年度と比較して、9 件増加と 大幅に立地件数が回復し、R 元年度 の実績(32 件)に近づきました。 立地件数の中で、44.8%にあたる 13 件が工業団地内に立地してお り、市町村の積極的な団地造成が 今回の立地件数増加につながった と考えられます。</p> <p><今後の取組></p> <p>引き続き「産業投資応援助成 金」等により、企業の立地支援を 行い、積極的な企業の集積を図り ます。それとともに、県と市町村 とで産業立地の考え方を共有し、 連携をさらに強化しながら、一体 となって企業誘致を進めます。</p>
税制優遇等を受 け本社移転・拡 充を行う企業 (長野県調査)	4 件 (R2 年度)	7 件 (R3 年度)	35 件	<p><現状分析></p> <p>経費のコストカットや、災害な どによるリスク分散等を理由に本 社機能の移転を行う企業が増加し たと考えられます。</p> <p><今後の取組></p> <p>本社機能を県外から移転する企 業を対象とした「本社等移転促進 助成金」や、IT 企業を対象とした 「ICT 産業立地助成金」を活用し、 県外企業の更なる誘致を図りま す。</p>

製造品出荷額等 (工業統計調査 (経済産業省))	2,994 億円 (R 元年)	同左	現状の水準を 維持	<p><現状分析> R3 年の実績は R5 年 3 月に公表予定 (工業統計調査) のため、R 元年が最新値です。</p> <p><今後の取組> JETRO などと連携した海外市場の調査・分析や有望市場における現地駐在員 (上海・シンガポール) による支援、国外の展示会等への出展支援などにより、新市場開拓・販路拡大を促進します。</p>
IT 産業における 1 従業員あたり 売上高 (特定サービス 産業実態調査 (経済産業省))	1,904 万円 (H30 年度)	同左	2,000 万円	<p><現状分析> 関連調査の統廃合により、R3 年度実績値の算出が現状不可となっています。なお、R3 年経済センサス (活動調査) で同様の実績を算定できるものとして分析予定です。(確報公表は R4 年度末頃の見込み)</p> <p><今後の取組> 地域課題解決や産業 DX の推進に取り組む産学官コンソーシアムを活用した連携プロジェクトを支援することで、県内での新たな IT ビジネスを創出するとともに高付加価値を生み出す開発型企業への発展を図ります。</p>
伝統野菜選定数 (長野県調査)	49 種類 (R2 年度)	51 種類 (R3 年度)	54 種類	<p><現状分析> R3 年度においては、県内過疎市町村等において新たに 2 種類の野菜を選定することができました。</p> <p><今後の取組> PR 等による信州の伝統野菜の認知度向上に取り組み、引き続き、農業農村支援センターを通じて現地での伝統野菜の掘り起こしを進めます。</p>

③地域における情報化

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
特に国民の利便性向上に資する 手続とされている 手続のオンライン化率 (長野県調査)	0% (R2 年度)	0% (R3 年度)	100%	<p><現状分析> 自治体 DX 推進計画による目標年度である R4 年度末を目指して各団体が取組を実施しているため、R3 年度の実績値は 0%となっています。</p> <p><今後の取組> 自治体 DX 推進計画による目標</p>

				年度である R4 年度末を目指して、各団体がシステム改修などを実施しています。
長野県先端技術活用推進協議会を活用し実施した共同調達件数 (長野県調査)	0 件 (R2 年度)	4 件 (R3 年度)	5 件	<p><現状分析> 共同利用による費用抑制や事務効率化の効果を市町村に共有できたこと、市町村が自ら自分たちに必要な共同調達を判断して参加できるように行政事務分野、県民生活分野それぞれで複数の検討チーム・WGを用意したことにより4件の共同調達を実現できたと考えられます。</p> <p><今後の取組> 引き続き、協議会活動を通じた情報共有や検討チームでの仕様検討を進め、共同調達案件の増加を目指します。併せて、行政事務分野における市町村業務システム標準化への対応支援や有用な取組に関する勉強会等での情報共有を行うことで、小規模町村も含めた全市町村の底上げを図ります。</p>
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数 (学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	4.5 人/台 (R 元年度)	1.0 人/台 (R3 年度)	1.0 人/台	<p><現状分析> 小中学生は既に端末整備が完了しており、高校生についても、BYOD（個人が私物として所有している端末を利用する形態）での対応が困難な生徒に貸与を実施したことにより、目標を達成しました。</p> <p><今後の取組> 高校生は R4 年度以降も、BYOD による端末整備を基本としつつ、対応が困難な生徒に関しては貸与による支援を行っていきます。</p>

④交通施設の整備、交通手段の確保

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
地域公共交通計画を策定する市町村数 (長野県調査)	17 市町村 (R2 年度)	18 市町村 (R3 年度)	40 市町村	<p><現状分析> R3 年度は南木曾町が新たに地域公共交通計画を策定しました。</p> <p><今後の取組> 地域公共交通計画の策定に係る費用の支援等により、引き続き、全市町村の計画策定に向けて取り組みます。</p>

⑤生活環境の整備

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
汚水処理人口普及率 (環境省、農林水産省、国土交通省調査)	97.8% (R2 年度)	97.9% (R3 年度)	99.1%	<p><現状分析> 基準年に対して普及率は増加したが、施設整備が完了に近づいているため、増加幅が小さくなっています。</p> <p><今後の取組> 長野県「水循環・資源循環のみち 2015」構想に基づき、生活排水処理施設を計画的・効率的に整備を図るとともに、これからの人口減少下でも、将来にわたって安定的に継続して運営できるようにしていきます。</p>
空家等対策計画策定市町村の割合 (長野県調査)	66.7% (R2 年度)	68.8% (R3 年度)	80.0%	<p><現状分析> 策定が次年度にずれこむ市町村があったものの、R3 年度は新たに2 町村の計画策定がありました。</p> <p><今後の取組> 引き続き、空き家対策セミナーや、空き家対策地域連絡会を通じて働きかけを行っていきます。</p>
住宅の耐震化率 (長野県調査)	82.5% (H30 年度)	86.7% (R3 年度)	92.0%	<p><現状分析> 建替え補助の促進や住宅耐震化緊急促進アクションプログラムの推進、木造住宅耐震リフォーム達人塾の開催といった取組を進めたことにより、H30 年度を上回りました。</p> <p><今後の取組> 耐震診断及び耐震改修に対し、補助事業により支援することで、目標値の達成に向けて取組を促進していきます。</p>
景観行政団体数 (長野県調査)	7 市町村 (R2 年度)	8 市町村 (R3 年度)	10 市町村	<p><現状分析> R3 年度は飯綱町 (R3. 4. 1 時点で一部過疎地域) が景観行政団体へ移行しました。</p> <p><今後の取組> 市町村の意向をふまえながら、景観条例の制定や景観計画の策定に協力し、景観行政団体への移行を推進していきます。</p>

⑥子育て環境の確保、高齢者等の保健・福祉の向上・増進

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
保育所等利用待機児童数 (保育所等関連状況取りまとめ 厚生労働省)	9 人 (R3 年度)	0 人 (R4 年度)	0 人	<p><現状分析> 新たな保育施設の開設などの影響で、R4 年度は待機児童が解消されました。</p> <p><今後の取組> 待機児童の発生を防ぐため、引き続き、保育士の確保や多様な保育の受け皿整備に努めていきます。</p>

⑦医療の確保

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
医療施設従事医師数(人口 10 万人当たり) (医師・歯科医師・薬剤師統計 (厚生労働省))	233.1 (H30 年度)	243.8 (R2 年度)	233.1 以上	<p><現状分析> R2 年度では、前回調査に比べ県全体の医師数が増加していることにより、人口 10 万人当たりの医療施設従事者数も増加しています。 ※調査は 2 年に 1 回</p> <p><今後の取組> 引き続き医師の確保の取組を継続し、過疎地域等の医療の確保を図っていきます。</p>
就業看護職員数 (人口 10 万人当たり) (衛生行政報告例 (厚生労働省))	1436.9 (H30 年度)	1490.3 (R2 年度)	1436.9 以上	<p><現状分析> R2 年度では、前回調査に比べ、人口 10 万人当たりの看護職員数は増加しています。 ※調査は 2 年に 1 回</p> <p><今後の取組> 引き続き看護職員の確保の取組を継続し、過疎地域等の医療の確保を図っていきます。</p>
へき地医療拠点病院の数 (長野県調査)	8 病院 (R2 年度)	8 病院 (R3 年度)	8 病院	<p><現状分析> 国立病院機構信州上田医療センターの指定を取り消しましたが、新たに市立大町総合病院を指定し、目標値の 8 病院を維持できています。</p> <p><今後の取組> 患者数の減少に伴う診療収入の減少により、厳しい状況が続いています。こうした現況をふまえ、引き続きへき地診療所やへき地医療拠点病院の支援を行います。</p>

⑧教育の振興

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童（小6）の割合 (全国学力・学習状況調査（文部科学省）)	83.7% (R2 年度)	80.4% (R3 年度)	83.7%以上	<p><現状分析> コロナ禍のため、地域の行事自体が中止となるケースも多く、参加の機会そのものが減少したことから、R2 年度を下回りました。</p> <p><今後の取組> 新型コロナウイルス対策や学校行事についての県のガイドラインを示し、学校と地域との連携を推進するとともに、各校の協働活動の様子を収集・発信していきます。</p>
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた生徒（中3）の割合 (全国学力・学習状況調査（文部科学省）)	64.0% (R2 年度)	59.7% (R3 年度)	64.0%以上	
「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合（小学校） (長野県調査)	88.7% (R2 年度)	88.5% (R3 年度)	88.7%以上	<p><現状分析> コロナ禍において、学校生活の制限が長引いていることにより、小学校、中学校ともに R2 年度の結果より微減していると考えられます。</p> <p><今後の取組></p>
「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒の割合（中学校） (長野県調査)	86.7% (R2 年度)	85.8% (R3 年度)	86.7%以上	<p>子どもたちが主体的・協働的に学ぶことができるよう、小規模小中学校への必要な教員配置や学校運営のマネジメント力向上により、子どもたちにきめ細かな対応ができる学校づくりを支援します。</p>
山村留学に取り組む団体数（再掲） (長野県調査)	14 団体 (R3 年度)	14 団体 (R3 年度)	18 団体	<p><現状分析> R3 年度は、R2 年度から新たに山村留学に取り組む団体が 1 団体増え 14 団体となりました。</p> <p><今後の取組> 山村留学に関心がある団体に対して、山村留学の運営等に係るノウハウを共有するなど、サポートする体制を強化し、山村留学に取り組む意向がある団体を支援します。</p>

⑨集落の整備

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
小さな拠点形成数 (小さな拠点の形成に関する実態調査(内閣府))	31 か所 (R2 年度)	31 か所 (R3 年度)	35 か所	<p><現状分析> R3 年度は過疎市町村等を含むすべての市町村において、小さな拠点形成総数に増減はありませんでした。</p> <p><今後の取組> 小さな拠点の形成を促進するため、必要なノウハウや国の支援制度等を市町村へ周知していきます。</p>
地域おこし協力隊員の定着率(再掲) (長野県調査)	86.2% (R2 年度)	74.6% (R3 年度)	87.0%	<p><現状分析> 定着率は R2 年度まで全県、過疎市町村等とも上昇傾向であり、R3 年度は R2 年度に比べ低下しました。</p> <p><今後の取組> 協力隊員の活動ステージに応じた研修の開催や地域おこし協力隊サポートネットワークにおける情報共有、隊員と受入市町村のミスマッチ防止を図る好事例を横展開し、隊員の定着を支援します。</p>
地域運営組織数 (地域運営組織の形成及び持続的運営に関する調査(総務省))	153 団体 (R2 年度)	163 団体 (R3 年度)	167 団体	<p><現状分析> 全県で地域運営組織数が増加していますが、そのほとんどが過疎市町村等におけるものでした(全県で 13 団体増加したうち、過疎市町村等では 10 団体増加)。過疎市町村等では、地域課題の検討や解決に取り組むニーズが高まっているものと考えられます。</p> <p><今後の取組> 地域運営組織の形成を促進するため、必要なノウハウや国・県の支援制度等を市町村へ周知していきます。</p>

⑩地域文化の振興等

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7 年度)	現状分析・今後の取組
文化芸術活動に参加した人の割合 (長野県調査)	44.8% (R2 年度)	76.3% (R3 年度)	72.5%	<p><現状分析> 新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた文化芸術の鑑賞機会や発表の機会が、オンライン</p>

				<p>の活用等により回復してきたため、R2年度の数値より上回りました。</p> <p><今後の取組> 引き続き、芸術文化団体の創作活動等の発表の場及び鑑賞機会の提供、文化芸術情報の発信等を通じて文化芸術の振興を図ります。</p>
文化財指定等件数 (長野県調査)	829件 (R2年度)	848件 (R3年度)	906件	<p><現状分析> コロナ禍の行動制限で指定候補の調査等に影響があったものの、前年度から20件上回りました。</p> <p><今後の取組> 引き続き、国や市町村と連携しながら文化財の指定件数を増やしていきます。</p>

⑪再生可能エネルギーの利用の推進

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7年度)	現状分析・今後の取組
1村1自然エネルギープロジェクト登録数 (長野県調査)	163件 (R2年度)	163件 (R3年度)	213件	<p><現状分析> R3年度は新規登録がありませんでした。再エネの取組は広く一般化してきており、再エネ事業自体が先進的と言えなくなってきたことから、市町村において個別事業を登録するインセンティブが薄れてきているものと考えられます。</p> <p><今後の取組> 未登録市町村には引き続き登録を求めるとともに、今後は再エネ事業の中でも特に先進的な事例の収集に特化し市町村へ呼びかけをすることとします。</p>

⑫その他地域の持続的発展に関し必要な事項

指標名	基準値 (計画策定時)	最新値	目標 (R7年度)	現状分析・今後の取組
地域おこし協力隊員の定着率 (再掲) (長野県調査)	86.2% (R2年度)	74.6% (R3年度)	87.0%	<p><現状分析> 定着率はR2年度まで全県、過疎市町村等ともに上昇傾向であり、R3年度はR2年度に比べ低下しました。</p> <p><今後の取組> 協力隊員の活動ステージに応じた研修の開催や地域おこし協力隊サポートネットワークにおける情報共有、隊員と受入市町村のミス</p>

				マッチ防止を図る好事例を横展開し、隊員の定着を支援します。
地域運営組織数 (再掲) (地域運営組織の形成及び持続的運営に関する調査(総務省))	153 団体 (R2 年度)	163 団体 (R3 年度)	167 団体	<p><現状分析> 全県で地域運営組織数が増加していますが、そのほとんどが過疎市町村等におけるものでした。過疎市町村等では、地域課題の検討や解決に取り組むニーズが高まっているものと考えられます。</p> <p><今後の取組> 地域運営組織の形成を促進するため、必要なノウハウや国・県の支援制度等を市町村へ周知していきます。</p>
圏域全体の活性化に取り組む圏域数 (長野県調査)	8 圏域 (R2 年度)	8 圏域 (R3 年度)	9 圏域	<p><現状分析> R3 年度は過疎地域を含む複数の市町村による新たな定住自立圏・連携中枢都市圏等の形成はありませんでした。</p> <p><今後の取組> 引き続き、市町村の選択を尊重しつつ、地域の実情や国による支援の状況等を踏まえながら、必要な助言等を実施します。</p>